

# 青春スクロール

## 母校群像記

### 印象的な体育祭／恩師の教え、皆たたえ

この欄の取材で平塚江南高校の卒業生50人以上に会い、印象的なことがいくつもある。

一つは体育祭。大会社を束ねる社長から芸術家までほとんどが話題にした。テーマを決め、仮装や立て看板を競う祭りが、たくさんのおもしろさを養った。NHKで野球やゴルフ中継を担当するアナウンサー宮田貴行(39、1993年卒)は「イベントに向けてみんなで作りあげていく。放送にも通じる」。紙を重ねた立体的な作品で知られる切り絵作家長田百合子(65、67年

#### 平塚江南高校 8



卒)は、仮装で「くノ一」やアイヌの衣装をデザインし頭角を現す。祭り好きが多い中、小田急電鉄で広報を担当する山田優(44、88年卒)は生徒会長を務め、2年の時、テレビのクイズ特番で優勝しアメリカ西海岸の切符を手にした。



独自の切り絵で注目を集める長田

きょうだいで唯一、プロ棋士となった小林禮子。夫は小林光一名誉三冠、小林泉美六段は娘



宅で50人以上のプロ棋士を育てた囲碁の故木谷実九段の子供7人のうち6人が、江南で学んだ。長男健一(故人、54年卒)は初の東大合格者の一人で、国立長寿医療研究センターの初代センター長。歳下で弁護士士の明(76、56年卒)は水戸地裁所長や東京

高裁部総括判事を歴任した。在学中にプロデビューした女流棋士小林禮子七段(故人、58年卒)、毎日放送アナウンサー吉田智子(故人、61年卒)もいた。

明は「優秀な同級生が多く、必死で勉強した。文武両道の『文』しかなかった青春」と苦笑いする。

最も感銘を受けたのは、卒業生が「様に『いい先生がいた』と話し、何十年も前の授業をいきいきと話したこと。

世界史の岩田一彦(71、61年



元祖カリスマ講師の岩田

多くの歌人や文筆家を育てた野地。自身も歌人で「白路」代表



卒)は新卒から25年間母校で教師の傍ら、旺文社の「大学受験ラジオ講座」で講師を務めた。放課後、東京へ収録に通い、「校長も『神奈川の教育レベルの高さを全国に知らしめる』と応援してくれた」。色とりどりのチョークで黒板いっぱいを書く解説は江南でも大人気。授業後の社会科準備室には生徒たちの行列ができた。

翻訳家古屋美登里(57、75年卒)らが熱烈に支持したのが国

語の野地安伯(73、59年卒)。14年母校で教え、秀歌紹介や朗々と読む漢文解説で魅了した。「文学の喜びを知る種を、私たちの心にまいてくれた」と古屋。その野地は、自身も恩師3人が目標だったと笑った。「恩師に仕込まれた知識を、僕の人生活験を加味し、後輩たちに伝えようとした。どこまでできたか分かりませんが」

平塚江南は今回で終了です。故人を含め敬称を略して紹介しました。足立朋子(大分県立大分東高校卒)、佐藤太郎が担当しました。次回は中高一貫の私立聖光学院(横浜市)です。新年に再開します。